

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	灰谷 謙二	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	修士（文学）	職位	教授
専門分野			

I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	日本語学概論、日本語学講義Ⅱ、日本語学講義Ⅳ、現代語学専門演習a、現代語学専門演習b、卒業論文（構想・準備）、卒業論文（構想・準備）、（前）日本語学基礎演習、（後）日本語学基礎演習、文章表現法入門、文章表現法入門（学術的文章）		
大学院	日本語学特講、日本語学演習、日本音律特論、日本文学・言語文化総論、研究指導（論文指導）		
II 研究活動			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）『瀬戸内海言語図巻』の追跡調査による音声言語地図の作成と言語変容の研究 基盤研究B 研究代表者 友定賢治 研究分担者 2017~2021 2021-2025			
（2）岡山・福山地区の社会言語学的調査研究			
（3）現代社会における性向語彙の質的变化と機能			
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3			
R4	〈論文〉	日本文学科 高大連携国語教育オンライン研究会報告ーリメディアル教育と入学者選抜試験の分析からー 2023年3月 藤本真理子・吉田幸・灰谷謙二・信木伸一・吉田幸・藤川功和 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第22号	
R3	〈論文〉	方言研究支援プロジェクトを振り返る『方言の研究7』2021.7 共著	
R3	〈論文〉	学生の言語運用能力のパフォーマンス評価ー「研究発表のルーブリック」から」2022年3月 共著（信木伸一・藤本真理子・小畑拓也・灰谷謙二・塚本真紀） 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号	
R2以前の主な研究業績			
（1）〈論文〉「「田畑からの帰り道でのあいさつ」にみられる表現発想と都市化」 『柳田方言学の現代的意義 あいさつ表現と方言形成論』ひつじ書房（H26/7）			
（2）〈論文〉小津安二郎『東京物語』における尾道方言使用の意味 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号 2013			
（3）〈論文〉海上ネットワークにおける言語伝播ー半陸半海の環境がもたらす伝播のメカニズムー 『方言の研究4』特集方言研究のネットワーク 日本方言研究会2018.9			
（4）〈著書〉『これが広島弁じゃ！』2016.12洋泉社（監修）			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R3・R4・R5			
所属学会・所属団体 役職等と任期			
日本語学会・日本方言研究会世話人（理事相当、編集委員会副委員長～）・日本音声学会・広島大学国語国文学会			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
（1）第49期 尾道いきいき大学講師（9月8日）			
出前授業	2回		
2. 委員会及び協議会委員（本年度1年間の活動状況）			
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（1）尾道市関係	尾道市立図書館運営協議会	委員長	2回
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（2）尾道市以外	社会福祉法人りじょう福祉会評議委員会	委員	1回